

## - 1 ひろば

### - 1 - 1 「下宮はまどん公園」(熊本県氷川町宮原地区)

旧宮原町(現・氷川町宮原地区)では、住民主体でまちづくりを推進する体制を整え、施設整備に関しても計画段階から維持管理段階まで住民自身が担うという方式を採用した。その方式により1998年に完成したのが下宮地区の「下宮はまどん公園」である。同公園は、整備する場所も整備内容も住民が決め、維持管理も住民自身が行うという町役場からの条件提示に則って整備された。公園の名前は、公園の脇を浜殿川(はまどのがわ)が流れることから、「下宮はまどん公園」と住民が決定した。

「下宮はまどん公園」は、敷地の隅に公衆便所がある以外は特段の施設も遊具もなく、ただ

地面が広がっているだけである。「公園」というよりも「ひろば」(あるいは「運動場」という方が場のイメージに合う。日本全国どこでも目にすることができそうな「ひろば」である。しかし、それでいて、例えばデザイナーがデザインしたような細々した施設、植栽などがある公園よりはるかに記憶に残る。住民自身が行ったという敷地縁辺部の植栽も大変すっきりしている。日常使う人の立場で出来上がった空間の心地よさが、そこにはある。この「公園」は自身が今でも精力的に維持管理を行っているとのことである。

### - 1 - 2 「児玉石公園」(長野県諏訪市)

「児玉石公園」は、市が住民事業を支援する「おらほのまちづくり事業」(2001年度~2005年度)により市民公共事業として完成したものである。敷地には水道施設付きの東屋が整備されている。

この公園も、地元の人あまり「公園」とは思っていないようである。「児玉石公園」ではなく「児玉石神社の前のひろば」と言った方が、話が通じる。この「公園」も大変素直ですっきりした空間になっており、記憶によく残る。



「下宮はまどん公園」 2006年2月撮影



「児玉石神社」 2007年4月撮影

## - 2 いきいき

### - 2 - 1 豊川いなり表参道（愛知県豊川市）

豊川稲荷の表参道商店街は、「できることから始めるまちづくり」を合言葉に「いなり楽市実行委員会」を2002年に組織し、毎月1回「いなり楽市」を開催し始めた。そのテーマは「なつかし青春商店街」である。そのイベントの雰囲気盛り上げるため、表参道全体を「昭和30年代」の懐かしい空間のイメージで統一してきた。例えば、店のショーウィンドウに縁日でよ

く売られていた「お面」を展示したり、壁に「ホーロー看板」を取り付けたりした。

その「ホーロー看板」は、「いきいき」している。あるいは「のびのび」している。まるで生きているようである。見ていて何となく楽しくなってくる。その「ぬくもり」を感じさせるデザインは、長く記憶に残る。

### - 2 - 2 伊東劇場（静岡県伊東市）

伊東市では周囲の山林部に「昭和30年代村」を建設する取り組みが進められている。その事業を進めている「ツカサグループ」が、2006年6月、まち中心部の「中央アーケード街」に「キネマカフェ伊東劇場」をオープンした。空き店舗を利用したもので、畳の上に座って飲食をしながら映画を見ることができるようになっている。その近くには「シネマ射的場カフェセントラル」もオープンし、縁日で行われていたような懐かしいゲームを楽しむことができ

るようになっている。週末には「伊東温泉 町おこし 地域活性化企画」と銘打って地元参加型の様々なイベントも開催している（卓球温泉、コンサート、ピンゴ大会など）。2007年4月には「セントラル」をリニューアルオープンし、「昭和“縁結び”商店街」の名前を掲げている。

印象に残るのは、「キネマカフェ伊東劇場」の映画の看板絵である。人物の表情がいきいきしている。昨今の映画の宣伝では、なかなか見られない。



「豊川いなり表参道」の昭和の看板  
2007年4月撮影



「伊東劇場」の映画の看板 2007年4月撮影

### - 3 いのち

#### - 3 - 1 赤坂一ツ木通り（東京都港区）

赤坂一ツ木通りでは商店街振興組合がユニークな街路灯の設置等を内容とするまちなみ整備を行った（2003～2005年度）。その基本理念は「経済効率主義」的まちづくりではなく「対面的でヒューマンな街づくり」であり、街路灯の「赤坂一ツ木三度傘」などは建築家・石井和紘氏の提案による。

商店街には現在、新しく整備された31の街路灯や2つのアーチ・ゲート等があるが、特に

#### - 3 - 2 七間町通り（静岡県静岡市）

呉服町通りに交差する七間町通りでは、呉服町通りと同様、歩行者に優しいまちづくりを行った。歩道を整備するとともに電線類の地中化を行う事業を1988年に決定し、1990年に実施した。

事業の結果、七間町は歩行者が安心して歩ける空間になったが、特徴的なのは大きなケヤキの木が道路に沿って数多く並んでいることである。また、夜は周囲を優しく照らす街路灯の

印象的なのが街路灯である。スチールの柱をくりぬかれたクヌギの木が覆い、傘には布が使われている。その夜間の姿は、クラゲが宙に浮いているようである。通りに沿って数多くのいのちが漂っているようで、昼間は無機的に見えるまちなみが夜はぬくもりのある有機的なまちなみに一変する。まるで宙に安心感が漂っているようである。

間接照明が木々の緑と調和している。その街路灯のカタチはクラゲのようにも見え、親しみを感じさせるとともに、何とはない安心感も感じさせる。



一ツ木通り 2007年3月撮影



七間町通り 2007年4月撮影

## - 4 つながり

### - 4 - 1 今井町の町家（奈良県橿原市）

今井町は中世の環濠都市の姿を今によく残すまちである。室町時代に寺内町として成立し、町衆が運営する自治都市として江戸時代を通じて発展した。その今井町では戦後、道路でまちを真ん中から分断する都市計画が決定されてしまった。今井町のまちなみを守る活動は昭和 40 年代から本格化していたことから、その都市計画に反対する活動が生じ、1989 年（平成元年）に都市計画道路が廃止・変更されて今井町のまちなみが保全されることとなった。そして今井町は 1993 年（平成 5 年）に重要伝統的建造物群保存地区に指定された。

今井町のまちなみは人間的スケールが維持され、歩いていてとても心地よい空間になっている。建築等に近代的材料がほとんど用いられていないことも落ち着いた空間づくりにおおいに貢献している。また、至るところで人の気配が感じられることも、心地よさの大きな要因となっている。町家の中から道路を眺めてみれば、公空間と私空間とが緩やかにつながっていることを実感できる。内と外とが壁で完全に分断されていないことにより、かえって家の中も落ち着く空間になっている。

### - 4 - 2 「伊勢河崎商人館」（三重県伊勢市）

伊勢市の河崎地区は、勢田川の水運で栄えた問屋街である。その地区で歴史的な価値ある家屋を数多く取り壊して勢田川を改修するという計画が行政側から 1976 年に持ち上がった。それに対し地元が反発し、地区を保存する活動が始まった。1998 年にはマンション建設計画があった土地を市が買い取り（建物は寄贈され

た）2002 年に「伊勢河崎商人館」をオープンした。

「NPO 法人伊勢河崎まちづくり衆」が管理運営するその建物は、内と外とのつながりを感じさせるとても落ち着いた空間をつくっている。



今井町の町家 2006 年 3 月撮影



「伊勢河崎商人館」 2006 年 3 月撮影

## - 5 むくもり

### - 5 - 1 「裏界線」(長野県飯田市)

飯田市には「裏界線」という耳慣れない名前の通りがある。「りかいせん」と読む。その裏界線を歩いていると、道にプレートがはめ込まれており、それに次のように書かれている。

「昭和 22 年 4 月 20 日 桜花は満開、日曜で絶好の花見日和、現在の動物園付近より出火した火は約 1 時間にして知久町通りへ抜け銀座へ延びた。干天続きで湿度は 30 パーセント以下に低下して、火災が呼び起こした風は風速 14

~ 15 米に及んだ為に、狭い道路を南から北へ、東から西へと、火流は縦横に猛り狂って、風は火を呼び、火は風を呼んで各所に飛火による火災を生じ、全く手のほどこしようのない迄に拡大した。(中略)この裏界線は、この時の教訓から、各家が裏側の土地を 1 メートルづつ出し合って、避難、消火のための通路として造られた幅 2 メートルの全国にも珍しい公衆用道路である」。

### - 5 - 2 石畳 (東京都新宿区神楽坂)

神楽坂は 2006 年から 2007 年にかけて放映されたテレビドラマ『拝啓、父上様』(倉本聰脚本)で全国的に有名になった。ドラマの視聴率は極端には高くなかったらしいが、神楽坂ツアーは大盛況である。そのドラマのオフィシャル・ガイドブックで倉本聰氏が語るによれば、神楽坂は「売り手市場」のまちである。氏は、「すべて世の中が買い手市場になっちゃっているけれども、売り手市場のものっていう

のは、ぼくは好きですね。売り手が誇りを持って、信念を貫いているという。それに怯えながら、買い手がそこに行くという世の中が好きですね」と語る。また、「(喫茶店で)新しい子が来てたから、「この子どもこの子?」って聞いたら、「地域の子」って。「地域の子ってどういうんだ?」って聞いたら、「地域で育てている子」」。神楽坂はそういうまちである。



「裏界線」 2007 年 4 月撮影



神楽坂の石畳 2007 年 4 月撮影

## - 6 ま

## - 6 - 1 「練」(大阪府大阪市空堀)

大阪市空堀商店街の周辺は、戦災を受けなかったことから古い長屋が数多く残る。それらの長屋は建築基準法上の既存不適格に該当するものも少なからずあることから建て替えが難しい状況にあり、老朽化にまかせるまま有効活用がされなければ消えていく運命にある。そのような長屋を再生させて地域を活性化しようという動きが地元有志から起こり、2001年に「空堀商店街界隈長屋再生プロジェクト」(略称「からほり倶楽部」)が設立された。「からほり倶楽部」は長屋を再生・活用してこれまで「惣」(複合店舗、2002年)、「練」(チャレン

ジショップ等、2003年)、「萌」(複合店舗・直木三十五記念館、2004年)をオープンしてきている。

「練」は蔵付きの長屋を再生・活用しているもので、工芸品店、喫茶店、建築事務所、きもの学院などのテナントが入っている。また、定期的、あるいはスポット的に入るチャレンジショップも多い。入口は西側正門、北門、西南入口の3箇所あるが、西側正門から玄関に至る路地(本館と蔵の間)は、内と外とを緩やかにつなぐ気持ちのよい空間になっている。

## - 6 - 2 麻布(東京都港区)

麻布は坂の多いまちであり、また、路地の多いまちである。路地は意外なところにある。暗闇坂を下って左折するとすぐ左側に門が見える(「麻布十番温泉(越の湯)」の向かい)。一見すると個人の家門のように見えるが、それをくぐると急な上り坂の路地となり、途中で右

折して狸坂に続く裏の道に出る。これは地図には載っていない路地である。路地の途中には住宅が何軒もあるので、これらの住宅の大家か地主が門を設けたのかもしれない。土地を知る人は通り抜けに使える便利な路地であるが、外の人は門を開けづらい。



「練」(西側正門) 2006年3月撮影



麻布の路地 2007年4月撮影

## - 7 くうき

### - 7 - 1 「もやい館」(熊本県水俣市)

「水俣市総合もやい直しセンター」(愛称「もやい館」)は、地域の絆を回復するための交流拠点として、また、福祉拠点として建設されたものである(1998年竣工)。その設計にあたっては地域の人々が自由に参加するワークショップ形式が採用され、専門家を中心に地域の高齢者、主婦、障害者など実際に施設を利用する人が多数参加してスタディが重ねられた。

このようにして出来上がった「もやい館」は、人々の絆の回復を願うという理念を表現する

かのように、内外の空間が多くの箇所につながっている。また、内部空間にはスロープや階段などで曲線が多用され、歩いていて気持ちのよいらズムを感じる。ファサードにはほぼ一面の透明ガラスが用いられ、緩やかに湾曲するスロープを上るにつれて外の景色が変化する様を見、流れる空気を感じることができる。建物内部にいながら空の大きさも感じることができる。

### - 7 - 2 「奉還町りぶら」(岡山県岡山市奉還町商店街)

「奉還町りぶら」は、岡山駅西口にある奉還町商店街の振興組合が1999年に開設したコミュニティ施設である。地区集会やカルチャー教室等に活用されている。利用料は商店街の負担により低く抑えられているが、学生が使う場合は無料になっている。奉還町商店街は周囲の学校との連携を大切にしているからであり、商店街のイベントの際には大勢の学生が手伝いに来ている。運営スタッフは「奉還町おかみさん

会」が担っているので、維持管理費を抑えることができている。

この「奉還町りぶら」は、アーケードで覆われた奉還町商店街にほっとする空間を提供している。建物の前にはポケットパークがあり、石張りの床は流れる川を演出している。天井からは、外の空気を感じさせる光が射し込んでい



「もやい館」 2006年2月撮影



「りぶら」 2006年2月撮影

## - 8 そら

### - 8 - 1 銀座中央通り（東京都中央区）

銀座で歩行者天国が始まったのは 1970 年である。銀座、新宿、池袋、浅草の 4 箇所で同年 8 月に開始された歩行者天国は、日本では初めての試みであった（アメリカでも同年 7 月にニューヨーク五番街ではじめて行われたようである）。そのきっかけとなったのは、自動車優先社会になってしまったことへの反省であったと言われる。現在も週末の午後に中央通りの

全長約 1km で実施されている。

銀座の歩行者天国が気持ちがいいのは、空が何とか「保全」されているからである。最近では超高層化が議論の対象になったが、中央区は 2006 年 10 月に新しい地区計画のルールを公表し、高さを抑制していく方針を示した。自動車ではなく人間を優先する道では、空の大きさが大切である。

### - 8 - 2 東京新都心（東京都港区等）

東京臨海副都心は東京の 7 番目の副都心である。1980 年代から本格的な埋め立てが始まり、1990 年代から交通機関の整備やビルの建設などが進められてきた。そして地区の一体的な運営を行うために「臨海副都心まちづくり協議会」が 1997 年に設立された。

臨海副都心は業務機能、居住機能、観光機能など様々な機能を持つが、2004 年に東京都が公表した「臨海地区観光まちづくり基本構想」では、地区のコンセプトを「舞台都市」とした。

そのイメージは「ライフスタイルの幅を広げ、生活を豊かにする舞台のようなまち」である。

このような体制、方針の下で整備が進められ、現時点では娯楽施設が集中するところ、業務施設が集中するところなど、場所によって様々な景観が出現している。それらの中でとりわけ印象深いのは、空が大きな花畑である。



銀座中央通り 2007 年 3 月撮影



東京新都心 2007 年 4 月撮影



## - 9 かえる

### - 9 - 1 多摩ニュータウン長池公園（東京都八王子市）

多摩ニュータウンの長池地区では、地元の有志が1999年に「NPO フュージョン長池」を設立した。その目指すところは「地域にお互いの顔が見えるコミュニティをつくる」であり「つなぐ」である。そしてユニークな名前の「隊」をつくって様々な分野の事業に取り組んだ。「住見隊」「夢見隊」(住宅)「夢伝隊」(広報)「高支隊」(情報)「おつまみ作り隊」(食)「自然隊」(コミュニティ)などなど。それらの活動を通じて「ゆるやかなネットワーク型の組織」をイメージしながら「自由に自立した人々

が創る街」をつくることを推進してきた。

2001年には八王子市から「八王子市長池公園自然館」(長池ネイチャーセンター)の運営を任されることとなり、同館が「NPO フュージョン長池」の活動拠点となった。さらに同NPO が加わった連合組織「フュージョン長池公園」が同センターが位置する長池公園の指定管理者となった。長池公園は、多摩ニュータウン南西部に位置する里山公園である。湧水地が保全され、田んぼや畑が経営されている。その公園の道はかえるべき道に見える。

### - 9 - 2 縄手通り（長野県松本市）

縄手通りはかえるのいる道である。横を流れる女鳥羽川にはかつてカジカガエルがたくさんいた。その当時を取り戻すべく川の清掃活動を開始するとともに1972年に「カエル大明神」を商店街の中に祭った。1989年には商店街の東西の入口にカエルの石像を置いた。1980年代後半には女鳥羽川の親水公園整備のため商

店街は取り壊しの危機に直面したが、存続を願う地域の人々の声を追い風に計画を変更させることに成功し、河川改修とあわせてまちなみ整備を行った。そしてカエルは残ったが、カジカガエルが住む環境を回復するための取り組みは今後の課題になってしまった。



長池公園 2007年4月撮影



縄手通り 2007年7月撮影

## - 10 ヘソ

### - 10 - 1 「とごしぎんざのお休み処」(東京都品川区)

まちをかえるにはヘソがあるといい。戸越銀座は元気な商店街として知られるが、その商店街に 1999 年 11 月、「とごしぎんざのお休み処」がオープンした。中には長いすがあり、お年寄りが世間話をしていたりする。品川区民チャンネル放送、インターネット無料体験コーナー、とごしぎんざブランド商品展示、まちの歴史を

示す古い写真展示などもあり、地域の人々の憩いの場、買い物客の語らいの場となっている。エコスポット（缶・ペットボトル等の処理機）も設置されていることから、まちの人々は定期的にここにやってくるようである。まちの記憶は、このようなヘソに集約されるように思われる。

### - 10 - 2 「まちの情報館」(静岡県沼津市)

沼津市の中心部に「アーケード名店街」がある。日本ではじめてアーケードを設置した商店街である（それ以前は「本町通り」という名前で、沼津一の商店街であった）。その商店街の入口に「まちの情報館」が 2004 年 5 月にオープンした。沼津市が整備し、「ぬまづ産業振興プラザ」(沼津地域産業振興協議会)に運営を委託している。当初は主に「アーケード名店街」の振興策を考える場であったが、現在は沼津市全体のまちづくりを考えている。主な活動内容は、まちづくりに関するセミナー、ワークショ

ップ等の開催であるが、商店街の人が祭りなどの打ち合わせで寄り合いに使うこともよくあるという。「地域活性化のためならどなたにも無料でご利用いただけます」ということであるが、今のところ一般の市民が自由に使うことはないのである。情報館の運営には学生も参加しており、2007 年の夏からは学生のインターンシップとして IT 講座の講師を学生がやっている（それで講師の学生は単位を取得する）。

このような施設がひとつあるだけで、その地域が記憶に残る。



「戸越銀座のお休み処」 2007 年 3 月撮影



「まちの情報館」 2007 年 4 月撮影